

世界救世教①之光教団 関東布教区信徒大会(信徒の集いin浜松)教主様お言葉
於：アクトシティ浜松(中ホール)

皆様、関東布教区信徒大会おめでとうございます。

明主様と共におられる主神のみ光が燦然と輝く中、私どもは新しい年を迎えることができました。

そして本日、この浜松で開催されました集いに私も参加させていただき、こうして皆様と親しくお目にかかることができますことを大変嬉しく思っております。

先程は、成井理事長より、お心のこもったご挨拶を通して、①之光教団の進まれる方向を明るく、力強くお示しいただき、大変頼もしく感じさせていただきました。

続いて、〇〇布教所の〇〇さん、〇〇布教所の〇〇さん、お二人よりの感謝奉告を通して、皆様が「想念の革正」の学びと「会う、聞く、浄霊」の実践に地道に励んでおられるご様子的一端に触れさせていただき、誠にありがとうございました。

皆様の常日頃のひたむきなご努力に頭の下がる思いであります。

と同時に、皆様が元々天国で主神に仕えておられた時の「神中心の信仰」を思い出し、全人類をご自身の子とするという主神のみ心にお応えすべく、一步一步着実に歩んでおられますことは、素晴らしいことであると思います。

私は、①之光教団の皆様がめざしておられる「神中心の信仰」とは、一言で申せば、明主様が一貫して願っておられる「神の實在」を認めることであると思います。

明主様は今も、あらゆる手段と方法をもって、主神が実際に存在することを私どもに気づかせようとしておられます。

たとえ、そのお姿は目には見えなくても、また、そのお声は聞こえなくても、主神は、実は皆様の中におられて、常に皆様をお使いになっておられます。

皆様が息を吸ったり吐いたりしておられる時も、夜お休みになっている時も、起きておられる時も、皆様が心に思うことすべて、取り組んでおられることすべてにおいて、主神は皆様をお使いになっておられます。

ですから、日々の生活や「会う、聞く、浄霊」を実践される中で、例えば、浄霊対象者が与えられない、布教所へのご案内が中々できない、あるいは、入信希望者がいただけないなど、自分が願うような取り組みができなかった

時、自分は神様に充分にお使いいただけていないとか、ご守護がまだいただけていないなどとお悩みにならないでいただきたいと思います。

主神は、大いなる赦しの中で、成功も失敗も、皆様ご自身がなさっているように感じさせてくださりながら、皆様をご自身の子とするために、一生懸命養育してくださっているのです。

ですから、私どもは、物事がうまくいく時はもちろんですが、うまくいかないと感じた時にも、勇気を出して、主神が明主様と共に働きくださっていることを認め、感謝申し上げることが「神中心の信仰」を培う大切な訓練なのではないでしょうか。

私どもの本当の命の親は、主神であります。

その本当の命の親である主神を、私どもに教えてくださったのは明主様であります。

明主様は、今から60年前、ご昇天前年の昭和29年（1954年）の4月19日、突然脳溢血の症状を起こして倒れられ、そして、その病が続く中、6月5日、主だった資格者をお住まいの碧雲荘にお集めになり、ご自身が、メシア、すなわち、主神の子たる存在として、新しくお生まれになったことに対する驚きと喜びのご心中を明かされました。

そして、その直後の6月15日、「メシヤ降誕仮祝典」を挙行され、全信徒にその喜びを分け与えてくださったのであります。

ここで、私どもが考えなければならないことがあります。

明主様は、ご自身の病が癒え、ご健康を回復されてから^{のち}後に、新しく生まれたと仰せになったのではありません。

お身体に目に見える回復の兆しがなかったにも拘らず、新しく生まれたと仰せになったのであります。

そして、その後もご健康を回復されないまま、翌年の昭和30年2月10日、ご昇天になられました。

私どもは誰しも、病気に苦しむことなく、健康で長生きすることを願うものであります。

私自身も、身体の具合が悪くなると不安になり、反対に少しでも良くなると安心いたします。

しかしながら、明主様は、病が癒えていないにも拘らず、新しく生まれたと仰せになり、筆舌に尽くしがたい喜びを感じられたのであります。

それはなぜでしょうか。

私は、明主様は、自らの病が癒えず、いずれ死を迎えなければならないと

いう状況に直面する中で、ご自身の命は、この世限りの肉体の命だけではなく、ご自身の中心には、もう一つの命、すなわち、主神の命が宿っていることを感じ取られたのではないかと思います。

その確信に至られたが故に、明主様は、ご自身の魂を主神に捧げられたと思います。

それを、大きな喜びをもってお受け取りになられた主神は、ご自身の永遠の命、すなわち、新しい命を明主様に授けられ、ご自身の子として迎え入れたことをお示しになったのではないのでしょうか。

明主様は、その主神の喜びをご自身の喜びとして感じ取られたからこそ、新しく生まれたと仰せになり、「メシヤ降誕仮祝典」を通して、その喜びを私どもにも分け与えてくださった、と私は信じております。

私どもは、長い間、本当の命の親を知ることなく、暗い闇の中を歩いてまいりました。

そうした私どもに対し、明主様は、ご自身が主神の子として新しくお生まれになることによって、私どもの本当の命の親がどなたであるかを、御身をもって教えてくださいました。

私どもは、肉体の両親から命を受け継いでいるだけではなく、もう一つの命、すなわち、主神の命を賜っているのであります。

私どもの意識の中心には、燦然と光り輝く主神がおられ、その主神の子として新しくお生まれになった明主様がおられるのであります。

私どもは親孝行に努めなければなりません、明主様に導かれて、本当の親に出会えた今、私どもをご自身の子とされたいと願っておられる主神に対して、“あなたこそ、わたしの本当の親だったのですね、と明主様と共に申し上げること、それが本当の親孝行になり、明主様も大変お喜びになるのではないのでしょうか。

終わりに、新しい年を迎えた私ども一同、肉体の死に囚われていた長い眠りから目覚め、明主様に結ばれて、永遠の命の親を知る幸せを賜ったことを主神に感謝申し上げるとともに、主神の新しい命の息吹を胸一杯に吸わせていただき、その命の息吹が、全人類とその父母先祖の方々を、そして、万物すべてをいきいきと甦らせてくださいますように、とお祈りさせていただきます。

ありがとうございました。

以 上